

7. 国内留学研修制度による研修・研究

豊田 修身

工業系試験研究機関研究員の国内留学研修制度により、4月21日から7月20日まで静岡県デザインセンターで、“地場産業のデザイン開発におけるコンピューター機器の活用”について研修を受けた。

デザインセンターでは、CAD、CG等のコンピューターデザインは、これからの時代のデザイン開発に新しい可能性を開く技術であると位置付けて、設備や事業に大きなウェイトを置いている。そして、可能性を広範に引き出すには、コンピューターを手の延長として使いこなしていくことが肝要であるとして、研修制度を設けて研修生を受け入れて指導すると共に、開放利用も行なっている。

私はCGを中心に、理論と共に基礎から応用までの実践の技術をコンピューターデザイン担当の研究員からマンツーマンに近い形で研修を受けた。修了制作に当たる自由研究では「地域技術を活用した生活機器のデザインシミュレーション」というテーマを掲げて、レディース用携帯電話の開発におけるモデリングのシミュレーションを行なった。

外観を構成する部分の素材を「木」、「籃胎漆器」、「花柄の樹脂」、「天然石」、「ステンレス」といったもので仕上げた場合の製品のテクスチャーを含めた雰囲気等を画面上でシミュレーションした。

この他、自由課題として竹編組の3次元表示(図1)、竹による立体トラス構造シミュレーション(図2)、“SUPER TAB

LEAU”による地下道内装シミュレーション(図3)等も試みた。試行錯誤の連続であったが、コンピューターデザインの可能性を大いに実感した研修であった。

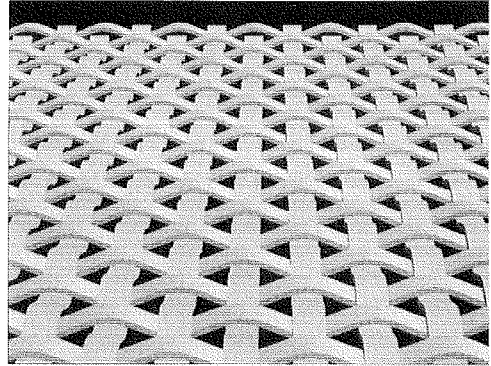


図1. 竹編組の3次元表示

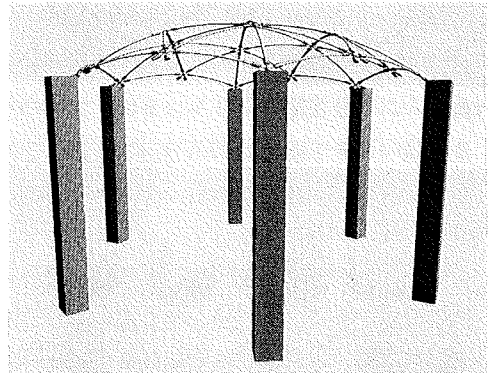


図2. 竹による立体トラス

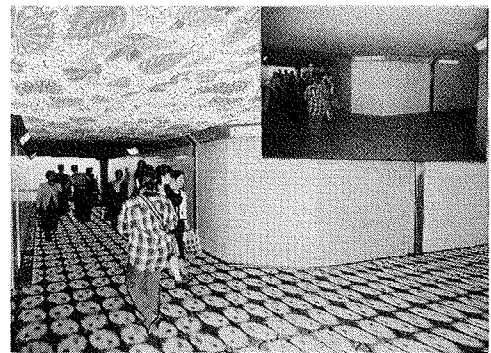


図3. 地下道内装シミュレーション
(右上は現状)